

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 **新**ワーケーション普及促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 国内誘客係 電話番号：058-272-1111 (内 3076)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

政府が新しい旅行や働き方のスタイルとして普及に取り組む「ワーケーション」について、岐阜県ならではのリゾート型のワーケーションとして需要が見込まれるのは、温泉とスキーであると考えられる。当事業では、温泉やスキーを組み込んだ岐阜県ならではのワーケーションについて、1週間程度の滞在プランを造成、モニターツアーを実施することで、長期滞在における地域の諸課題を洗い出し、環境整備に向けた方針を検討する。

また、別途観光連盟が県内全域で実施する地域観光素材の商品化事業とも連携し、開発した商品を当事業のモニターツアーに組み込む等により、本県のワーケーションの取組みを加速させる。

(2) 事業内容

①ワーケーションモニターツアー事業 (5,000 千円)

ワーケーション誘致に熱心な県内地域及び企業の福利厚生を代行する事業者等と連携し、1週間程度のモニターツアーを実施する。岐阜県ならではのワーケーションの実施に向けて、長期滞在プランを造成し、モニターツアーとして滞在費の一部助成等を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国内誘客の推進は県の事業であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	5,000	ワーケーションモニターツアーの実施
合計	5,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

Ⅱ ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

3 地域の魅力を高め、観光交流を拡大し、消費を増やす

(人を呼び込み、地域の消費を拡大するために)

岐阜県観光振興プラン

(2) 国・他県の状況

国：7/27 政府の観光戦略実行推進会議で、観光と仕事を両立したワーケーションの普及などに言及。

他県：

・和歌山県・・・平成 29 年度からワーケーションの取り組み開始。

Wakayama Workation Networks の推進

・長野県・・・商店街の空き店舗などの遊休施設を拠点として整備。平成 31 年 3 月に「信州リゾートテレワークフォーラム」を開催、ワーケーションに興味をもつ企業などを対象にワーケーション拠点としての長野県の魅力やメリットなどを PR

・三重県・・・令和 2 年、ワーケーションプランの企画、必要な環境整備及びモニタリング実施等のモデル事業を募集

(3) 後年度の財政負担

モニターツアーの結果を踏まえて、今後の展開を検討する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ワークーションのモニターツアーを実施し、ワークーションの諸課題を洗い出すことで、今後の環境整備に向けた方針を検討する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
観光消費額	億円 (H-)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1)	3,300億円 (R7)	88.9%
観光入込客数（実数）	万人 (H-)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1)	4,900万人 (R7)	98.0%
外国人延べ宿泊者数	万人 (H-)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 大手企業及び従業員のワークーションに対する需要・意識調査を実施する。

（前年度の成果）

・大手企業及び従業員のワークーションに対する需要・意識調査の結果をもとに、宿泊施設の現状、需要調査につなげることができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	事業者からは、新型コロナ影響でインバウンドが見込め中、平日かつ長期滞在が見込めるワーケーションに期待する声がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) —	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	ワーケーションに熱心な市町村と連携することで、効率化を図れている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>当事業は、モデル事業の位置づけであり、報告を元に課題を整理し、今後の他エリアへの展開等も検討する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	ワーケーション対策事業費 【観光企画課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	ワーケーション対策事業で造成した着地型プログラムをモニターツアーに組み込む